

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

学校名	嬉野市立五町田小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や研修について見直しているものの、コロナ感染症対応による職員の負担感、行事の変更等で時間外勤務も前年度と比べてあまり変わらなかった。また、児童対応の事案については、他の外部機関との連携・協力により担任が一人で抱え込まない体制が整い、負担軽減につながる事ができた。</li> <li>・コロナ禍の中で「学び合い」を活用した授業づくりができず、前半は一人学びの時間を設定したことから、自分の考えを書くことに対して少しづつ抵抗が少なくなってきた。基礎学力の定着のために全職員で取り組んだことで、学力向上につながった。引き続き、学校が一つになってこの実践を行っていく。</li> <li>・キャリアパスポートが効果的にじっしされてよかった。次年度も学年相応に丁寧に推進していく。</li> <li>・児童は安全で落ち着いた学校生活を送ることができた。さらに、自己有用感を高め、人付き合いの仕方や自分の気持ちの伝え方等を学習するためのSSTを取り入れると共に、日常の教育相談を丁寧にやっていく。</li> <li>・体力・運動能力の向上に向けて環境整備を進める。また、家庭生活リズムづくりの中で、特に、テレビゲーム等の時間が守られていない状況も見られる。さらに、家庭との連携を図る。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>かしこく やさしく たくましく</p> <p>①かしこい子(主体的に学び、集団の中で生き生きと活動できる子ども) ②やさしい子(自分で考え行動し、他者と協力できる子ども) ③たくましい子(心も体も健康で粘り強い子ども)</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①全ての子どもが「活動する喜び」「分かる・できる喜び」「教え合い・学び合う喜び」「追求・工夫する喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。</p> <p>②全ての子どもに「関わり合いの中で生き生きと学ぶ」機会を作り、「学校に行きたい」と思える期待感の向上を図る。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価
---------------	------

(1)共通評価項目		重点取組		中間評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学習状況調査の採点を通じて、課題や手立てを出し合い、共有化を図りマイプランをたてて検証する場を設ける。	A	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告した教師は100%。 ・校内研修でマイプランの検証の場を設ける。(7月)
	○学び合いを取り入れたわかりやすい授業の実践	○「授業がわかりやすい」「進んで学び合いができた」と回答した児童が90%以上。	・授業の中で、自分の考えを持つ場や学び合いの場を設定する。 ・思考を助ける掲示を活用したり、発問を工夫して、学習内容の理解を図る。	B	・7月に実施したアンケート調査で「授業がわかりやすい」と回答した児童は、96.8%。「進んで学び合いができた」と回答した児童は、86.5%となった。引き続き、思考を助ける掲示の活用や発問の工夫を行っていく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価のアンケートの「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う」と回答した児童が90%以上	・年に2回アンケートを実施 ・道徳の授業・体験活動の充実 ・人権集会(11月) ・ふれあい道徳(12月)	A	・第1回目の学校評価児童用アンケート「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う」の項目で96.8%だった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見、早期対応 ○QUテストにおいて1学期よりも2学期は満足群を増やし、要支援群を減らす。 ○「学校が楽しい」という児童の割合が90%以上	・日常の観察を心がけ、子どもの小さなつぶやきを見逃さないようにする。また、子どもが相談しやすい雰囲気作りを行う。 ・月1回の仲良しアンケートや年2回のQUテストを行う。 ・子供同士で認め合うような学級づくりに努める。 ・各種おたよりで、学校での取り組みを周知する。	A	・全クラスにいじめ防止に関わる授業を人権・同和教育担当者が行った。また、6年生に部活学習の授業を行った。授業の内容や様子について、保護者に向けて、教育相談だよりを発行した。 ・QU研修会を通して、夏休み以降の具体的な方策を立てて実施していく。 ・第1回目の学校評価児童用アンケート「学校は楽しい」の項目で94.1%だった。
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎めあてをもって実践しようとする児童を90%以上	・キャリアパスポートの活用を図る。 ・生活や学習において自分のめあてや見通しをもたせて、活動後のふりかえりを行うことで自分の成長につなげていく。	A	・第1回目の学校評価児童用アンケート「めあてを持って取り組む」の項目で95.7%だった。 ・年度当初のキャリアパスポートの活用を全校に呼びかけて、児童が1年間の目標を立てることができた。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「生活・家庭学習チェックシート」を活用し、生活習慣に関する項目が「できた」と答える児童が90%以上	・「生活・家庭学習チェックシート」に取り組み、各項目を意識して生活をさせ、自分の生活を振り返らせる。また、時間や時刻については、家庭で話し合っ決めてもらう。 ・「生活・家庭学習チェックシート」の意識づけを図るとともに、結果について情報を発信し、保護者との連携を図る。	A	・規則正しい生活(早寝早起き・朝ご飯・歯磨き・テレビやゲームなど)ができていると答える児童97.3%。 ・生活習慣チェックシートをチェックし望ましい生活習慣への意識づけを行っていく。
	○体づくり	○体育やスポーツチャレンジなど、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が90%以上	・体育学習の充実を図り、体育の時間やマラソン大会などにおける自己の記録向上に向けての意欲を高める。 ・佐賀県スポーツチャレンジに参加することを通して、運動の楽しさや競争することの楽しさを感じさせる。	A	・体育やスポーツチャレンジで、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が96.3% ・体育の時間に目標を持たせて取り組むことができている。スポーツチャレンジにも取り組む予定。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。	・定時退勤日(第1金曜日・第3水曜日)の推進	B	・年度当初は、業務時間外勤務が多かったが、徐々に改善されてきた。4月から7月までの全職員の時間外在校時間の平均は33時間であった。昨年度の平均は37時間に対し、4時間の短縮であったが、月45時間を超える職員もいるので、更なる改善が必要である。
	○計画的・効率的な業務の遂行	○「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が90%以上を目指す。	・学校行事やプロジェクトの活動を見直し・精選を行い、年間計画にもとづき、見直しをもって業務に取り組む。 ・校務フォルダの整理を推進し、業務の効率化をめざす。 ・職員会議のペーパーレス化で業務改善を行う。	B	・「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が88.9%であった。 ・行事の反省や提出データを校務フォルダ内で、入力・保存し、業務の効率化を図っている。 ・年度当初の職員会議以外は、ペーパーレス化ができている。